

## 富山市メンタルヘルスサポート協力店事業【富山県富山市】

(実施主体) 富山県富山市

(基金事業メニュー) 強化モデル事業

(実施期間) 平成 22 年度～24 年度

(実績見込額) 平成 23 年度 281 千円

### 〔地域の実情・特徴〕

平成 22 年の富山市の総人口は 421,890 人（平成 22 年国政調査人口速報）であり、人口構成割合は、年少人口 13%、生産年齢人口 62%、高齢人口 25%である。

平成 22 年の世帯数は 159,066 世帯で、一世帯当たりの平均人員は 2.65 人である。単独世帯は 28%を占めている。

平成 22 年の人口動態では、出生は 3,499 人、死亡は 4,235 人である。面積は（県庁所在都市では静岡市に次いで第 2 位）1,241.85k m<sup>2</sup>で、海拔 0メートル（日本海）から 3000メートル（立山連峰）までの豊かな自然に恵まれた都市である。

### 〔事業の必要性・目的〕

#### 1. 富山市の自殺者数・自殺死亡率の推移

平成 19 年の富山市の死因順位では、自殺は 6 位であった。

平成 15 年からの富山市での自殺の死亡数、自殺死亡率は下記の通りである。

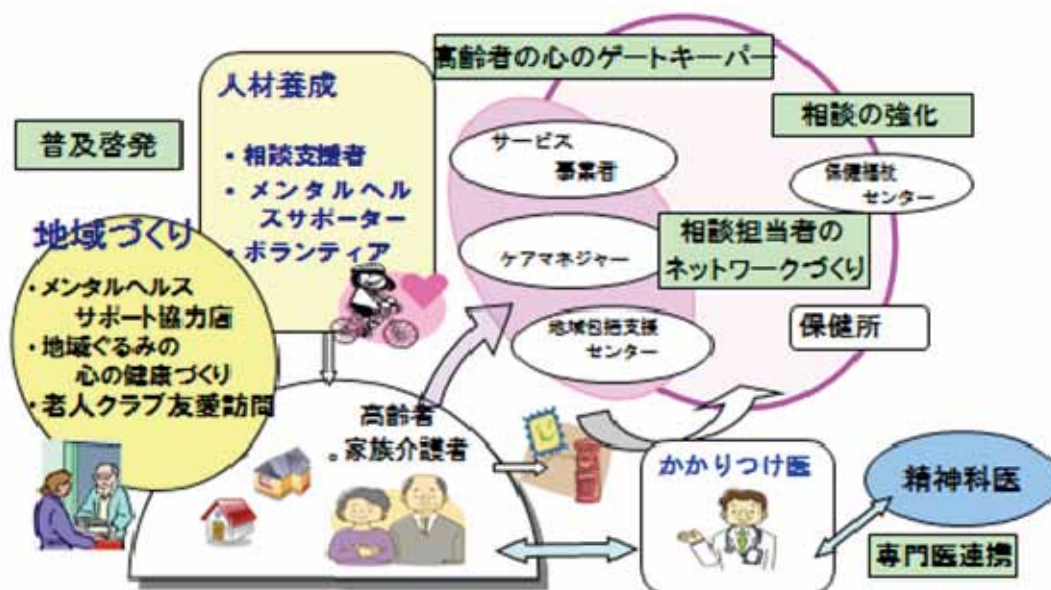
年	自殺死亡数	自殺死亡率
平成 15 年	119	28.4
平成 16 年	100	23.9
平成 17 年	102	24.5
平成 18 年	100	24.0
平成 19 年	106	25.3
平成 20 年	110	26.3

#### 2. 富山市の自殺対策

平成 19 年度から自殺予防対策事業として、①自殺予防のための心のケア相談 ②自殺予防市民フォーラム ③心の健康づくり講演会 ④広報による自殺予防の啓発を行ってきた。平成 21 年度から地域自殺対策緊急強化基金の創設を受けて、総合的な自殺対策を開始した。

保健、医療、福祉、教育、産業等が連携し、市民の自殺予防に関する意識を高め、総合的に自殺対策を推進した。事業内容としては包括的相談事業、人材養成事業、普及啓発事業、強化モデル事業等を 3 カ年計画で実施した。

予防啓発、発見、つなぎから相談支援まで



3. メンタルヘルスサポート協力店養成事業

自殺は「追い込まれた末の死」とされており、悩みを早い段階で解決に結び付けていくことが必要である。そのため、地域でのゲートキーパーを多く養成することは重要である。

理容院・美容院は、富山市には約 1500 店舗あり、下記の点から地域のゲートキーパーとして適切であると判断した。

- ① 多くの市民が、定期的に利用する
- ② 利用者の表情等の変化に気づく程度の親密度がある
- ③ 接客の中で自然な会話がある
- ④ 利用することそのものにリフレッシュ感やリラクゼーション感を感じられる
- ⑤ 雑誌を読んだりする適度の待ち時間がある

【事業の内容】

理容院・美容院の方にメンタルヘルスや傾聴に関する研修受講後、メンタルヘルス協力店として登録してもらい、日頃の接客の中でお客さんの日常のストレスなどについて話題にするなど傾聴に心がけ、必要に応じた相談先や専門機関を紹介していただき、その後地域での見守りの役割を担っていただく。

① 養成講習会

講習内容については、次のとおり。

(講習内容)

・ 講義「メンタルヘルスの基礎知識」	精神科医師担当	60分	
・ 演習「傾聴法、リラクゼーション法」	臨床心理士担当	60分	合計 120分

## 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す

### ② 登録

- ・養成講習会終了後、メンタルヘルスサポート協力店のステッカーを店舗に貼付していただく。
- ・保健所ホームページにメンタルヘルス協力店の登録店舗名、住所を記載し紹介。

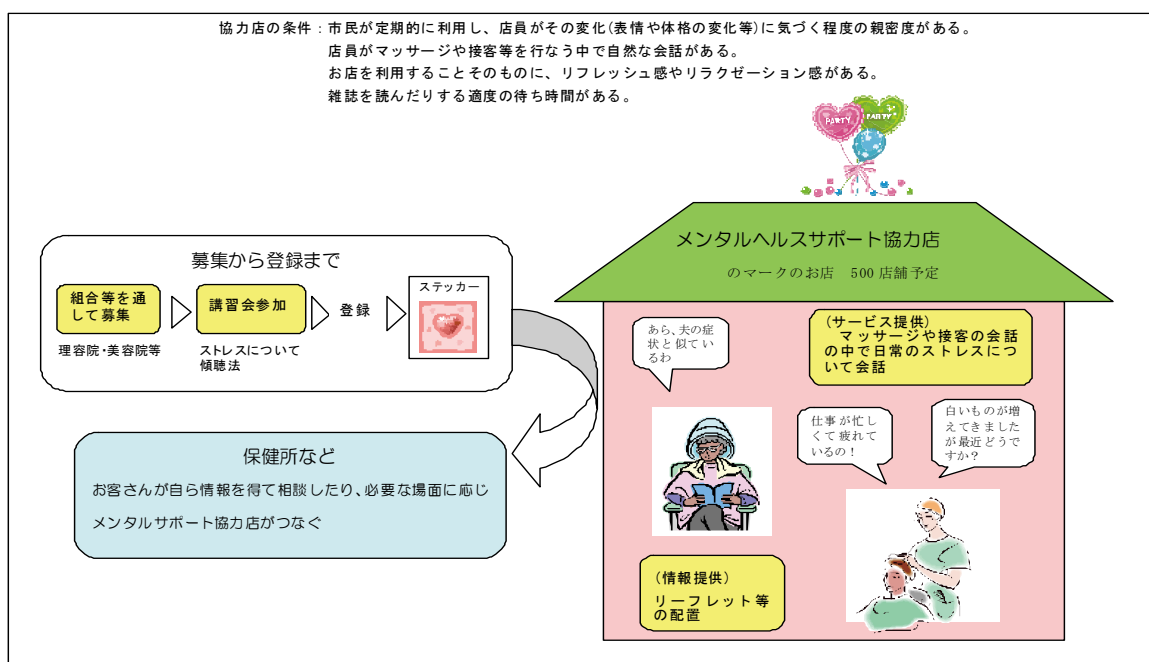
### ③ 活動の内容

- ・お客さんに対して髪をカットしながら、会話等を通して疲れを癒す。
- ・顔色が悪い方や不安、悩みがある人には、必要に応じて関係機関を紹介。
- ・待ち時間に読めるメンタルヘルスについての冊子を展示し情報提供を行う。

### ④ フォローアップ研修

登録されたメンタルヘルスサポート協力店には、継続的にフォローアップ研修を行い、知識や情報の提供を行う。

メンタルヘルスサポート協力店のイメージ



### 【事業実施に当たっての運営体制等】

事業の実施は、富山市が行い、受講の呼びかけについては、理容・美容組合と連携して行った。

### 【事業の成果、工夫をした点、その他特筆すべき点】

① 成果等

年度	研修会実施回数	参加者数	登店数
平成2年度	3回	143人	114店舗
平成23年度	4回	114人	92店舗
合計		257人	206店舗

心の健康に対する理解者であるゲートキーパーは、身近ないろいろな立場や関係機関の人になっていただくことが大切であり、今回の事業では、地域の中で誰もがなじみのある“場所”“人”に着眼することで、市民の生活により近いところで広げることができた。

また、マスコミなどに取り上げられるなどの反響があり、取組を知り、利用される方も多くいる。登録店からは、接客の中で、心の健康に関する話題を気軽にできるようになり、接客の上での変化があったとの声が聞かれています。

平成21年度から総合的な自殺対策に取り組んでからの富山市の自殺に関する統計は次の通り。

年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
自殺死亡者数	106	110	102	92
自殺死亡率	25.3	26.3	24.4	22.2
自損（救急） 出動件数	211	222	184	159
相談実件数（年度）	13	9	131	162
相談延件数（年度）	140	62	1,278	2,338

② 工夫した点

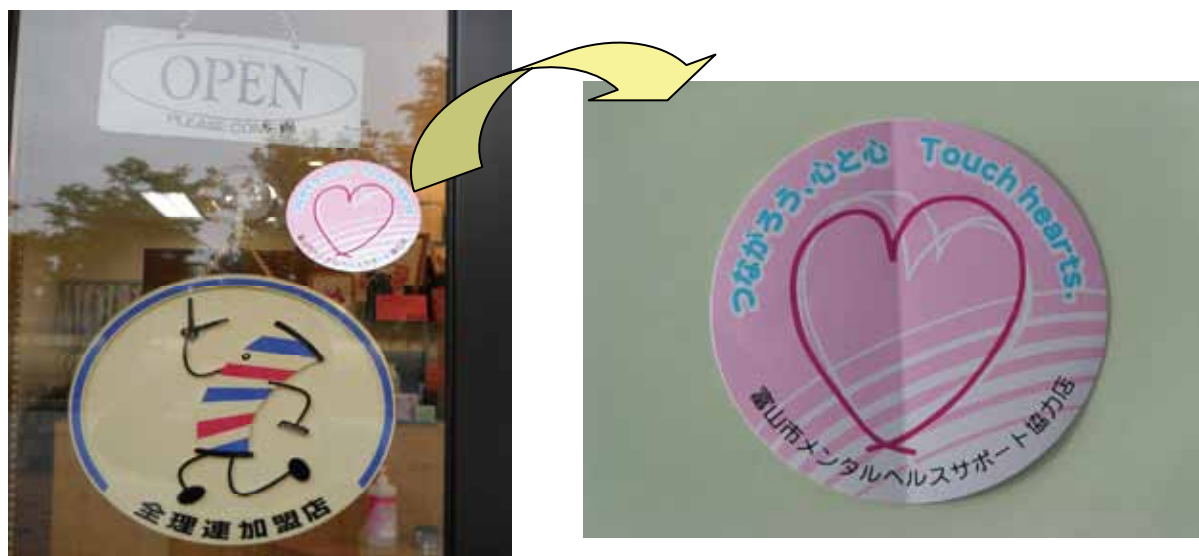
事業を始めるにあたり、参加しやすい環境整備が重要と考え、自殺対策の一翼を地域の方々に担っていただくには、参加するハードルを低くすることを重視した。そのため、本事業においては、次の点に工夫した。

- ア、はじめに理容・美容の組合に事業を説明し、組合の協力を得た。
- イ、説明に際しては、自殺予防を前面に出すのではなく、日頃の業務の延長線がお店を利用される方の心の健康につながることを説明した。
- ウ、何か対応で困ったことがあれば、保健所が対応することを説明した。
- エ、研修会の内容については、講師と何度も相談し、メンタルヘルスに関する理解を深めやすものにするとともに、傾聴に関する実習を取り入れた。
- オ、研修会では、日常業務の中に取り入れて実践できるような内容とした。
- カ、開催日時は、組合と相談して、参加しやすい日時を設定した。

## 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す

平成 22 年度は、理容・美容組合を中心に養成を行った。研修案内は、組合を通して配布した。2 年目である平成 23 年度は、組合からの回覧とともに保健所職員が直接、市内の理容院・美容院を訪問し、講習の案内を行った。また、理容、美容組合に加入していない店にも講習の案内を行い、協力店の増加に努めた。

### 【メンタルヘルスサポート協力店登録のステッカー】



(問合せ先) 富山市福祉保健部保健所保健予防課

TEL:076-428-1152

E-mail:hokenjyoyobo-01@toyama.city.lg.jp